



四季 ~四中の季節~

教育目標 ●自分で考え進んで実践する人間 ●公共心に富み情操豊かな人間
●勤労を尊び責任を重んじる人間 ●健康でたくましい人間

9月26日 開校記念日 『小平四中の始まり』

校長 関 勝 志

小平四中は、小平一中の生徒数と学級の増加に伴って、分校として建設され、1965年（昭和40年）に開校しました。東京オリンピックの翌年です。玉川上水と雑木林、そして茶畑に囲まれた自然豊かな場所に、小平市の中学校としては最初の鉄筋校舎が建設されました。しかし、生徒の机や椅子は一中で余ったお古を使用し、ピアノもオルガンもなく、入学式の歌唱伴奏はピアノ力を借りて行いました。しばらくの間は、現在の南側校舎と校庭しかありませんでした。正門の位置も今の場所からは少しずれていました。

開校時、3年生は一人もいませんでした。172名の2年生だけで始業式を行い、翌日の入学式で170名の新生を迎えました。男子163名、女子179名、計342名、1年4学級、2年4学級、計8学級が小平四中の始まりです。その後、生徒数はどんどん増加し、1975年（昭和50年）には1,000名を超え、29学級のマンモス校になりました。

【校章制定】 1965年（昭和40年） 6月14日

校章は、小平市報で図案を募集し、教職員と生徒の投票によって3点までしぼり、最終的には画伯の意見を参考にして決定しました。四つの尖先（とがった部分）は「智・仁・勇・愛」を表しています。

「智」は正しい判断力と知恵、「仁」は優しさや思いやり、真心、「勇」は困難を乗り越え行動する勇氣、「愛」は慈しみ、大切にすることです。社会で自立し、よりよく生きていくため、四中生に身に付けてほしいという願いが込められています。それは60年経ったいまでも変わりません。

【校歌制定】 1966年（昭和41年） 9月26日

小平四中は創立60年目です。それほど歴史が古いわけではありませんが、校歌にはどこか荘厳な趣があります。蛙の詩人として有名な草野心平先生の作詞と渡辺浦人先生の作曲によって、この格調高い校歌が生まれました。さて、校歌の歌詞にはどんなメッセージがあるのでしょうか。

【校歌】

日輪は 天に輝き
赤松と 雑木の森の
学び舎に 光あふるる
若き日の 胸は高鳴り
真善美 高き理想の
夢を追う われら朋がら
小平第四 小平第四
おお われらが母校

上水の 桜並木の
桜花 萬朶とひらき
見はるかす 丹沢秩父
そよ風に へんぼんと
智仁勇 象徴の旗
ひるがえれ われらが校旗
小平第四 小平第四
おお われらが母校

【意味・メッセージ】

太陽が空に輝き、明るい光がさんさんと降り注いでいる。学校の側にある赤松林や雑木林の木々が太陽の光に輝き、四中にはまぶしいほどの光があふれている。若い日々、我らの胸は夢と希望に満ちあふれドキドキしている。「真実を貫き、善良を尊び、美しさに感動する」という普遍的で高い理想と目標を掲げ、夢に向かって努力する我らは、かけがえのない仲間だ。小平四中こそ、この美しい小平四中こそが、我らの母校なのだ。

玉川上水の桜並木では、桜の花がたくさんの枝から咲きこぼれている。遠くを見渡してみると、はるかに雄大な丹沢や秩父の山並みがながめられ、美しい風景だ。そよ風にヒラヒラと我らの校旗がひるがえっている。それは「正しいことを識り（知り）、相手の立場になって考えられる慈愛の心を持って、惑わされることなく、憂えることなく、勇氣をもって信念を貫くことができる」という我らの目指す生き方の象徴だ。小平四中こそ、この正義と愛のある小平四中こそが、我らの母校なのだ。

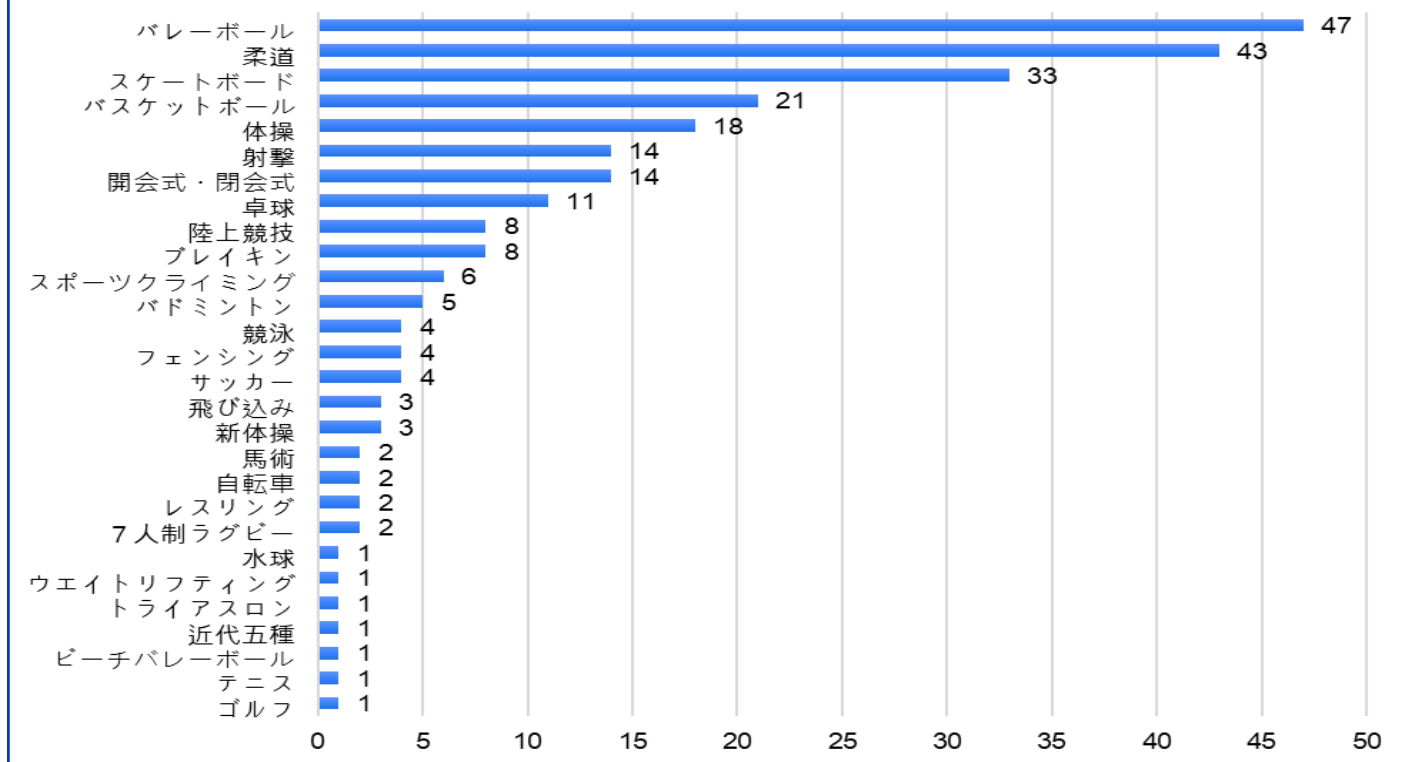
校歌は「われらが母校」という歌詞で締めくくられています。他の学校の校歌でも「母校」という歌詞が多く歌われています。「母校」とは、自分が学んでいる学校、また自分が学んで卒業した学校のことですが、なぜ「母」を使うのでしょうか。「父校」とは言いません。

これは、日本だけでなく、欧米でも「Alma Mater（ラテン語で「育ての母」）」という表現が一般的に使われているそうです。母親が子を産み育てる愛情や行いを、学校になぞらえているのかもしれない。改めて学校には愛が大切なのだと感じます。

こどもたちには、小平四中で、たくさんのことを学び、たくさんの人とふれあい、たくさん笑って、たくさん泣いて、心を育ててほしいと思っています。そして、「母校」としてだけでなく、「心のふるさと」として、いつまでも小平四中を大切にしてくれることと信じています。

☆☆☆ パリオリンピックを振り返って（生徒アンケート） ☆☆☆

パリオリンピックで感動した、印象に残った競技等



【感動したこと（抜粋）】

日本とパリでは時差があるため、パリオリンピックをLIVEで観ることは難しく、東京2020に比べるとテレビ等で観戦した人は少なかったようです。それでも、こどもたちは感動し、様々なことを学びました。こどもたちの感想（抜粋）です。学校ホームページにはすべての感想を掲載します。

【バレーボール】

・イタリアとの試合のときに、イタリアに攻められている中で、キャプテンの石川祐希選手は、自分のことを第一にするのではなく、仲間を第一に考えて仲間に声掛けをしてはげましている姿に感動しました。

・古賀選手の引退試合になった試合で、「キャプテンの私じゃなくて、バレーボールが大好きな古賀紗理那として戦いました。」という言葉に感動した。

【柔道】

・柔道を見て私は感動しました。優勝候補であった阿部詩（妹）選手が決勝に進出することができずに涙を流した。その思いを背負い戦う兄の一二三選手。兄として妹の分まで頑張る姿にとっても感動しました。

・試合を見ていて、日本選手は他の国の選手に比べて、相手選手への尊敬の気持ちや正々堂々戦おうという思いがすごく伝わってきて、日本らしい柔道をしているのがかっこいいなと思った。誤審もあったりしたが、選手たち同士にはスポーツマンシップを感じてオリンピックならではの感動があった。

【スケートボード】

・堀米選手の最後の最後で大技を決めて金メダルを取ったシーンと、吉沢選手の金メダルを取ったシーンの実況で「金メダルに恋した14歳」というフレーズにぴったりな笑顔がすごく記憶に残っています。私もこれからは、努力を続けていこうという気持ちにさせてくれた笑顔でした！

【バスケットボール】

・八村選手がアンスポーツマンライクファウルを二度取られ退場になってしまったあとの重い雰囲気からの、日本の粘り強さが心に残っています。このフランス戦で感じたことは、日本のバスケが世界に通用することを知り、まだまだ自分も高校でバスケを続けようという勇気をもらいました。

【体操】

・日本が大逆転で金メダルを勝ち取った場面で、「諦めないこと」の大切さを感じました。最後まで自分たちのできる精一杯の努力をすれば、必ずと言っていいほど結果がついてくることが目に見えて感じました。自分の普段の学習、部活動にこの場面から学んだものをつなげていきたいです。

【開会式・閉会式】

・開会式、あれは独特の「フランスらしさ」が良くも悪くも出ていると思う。フランス革命で処刑されたマリー・アントワネットをイメージしたのか、生首を持って、赤いスモークを焚いてる演出があったり、明らかに「最後の晩餐」をイメージした演出があったりと、良くも悪くも本当に「独特」だった。

【射撃】

・「無課金おじさん」など個性的な選手が沢山集まっていた面白かった。競技も非常に見応えがあり、金メダル選手の射撃にはつつい見惚れてしまうほどだった。何から何まで魅力的な競技だったと思う。

【卓球】

・卓球団体女子の決勝を見て、すべてのセットがあと一歩のところまで負けてしまったのが、自分のことのように悔しかったのでとても印象に残っています。張本選手と早田選手のダブルスが息ぴったりでとても感動しました。世界王者である中国といい勝負をした日本は本当に誇りに思います！

【ブレイキン】

・初めての競技で、選手全員が楽しそうに踊っているのが印象に残りました。日本選手が優勝が決まったとき、みんなで抱き合いながら喜んでいて、相手選手とも抱き合っていて、改めてオリンピックっていいなと思いました。

【スポーツクライミング】

・日本の選手がまだ若いのに、ギリギリのところまで登って、もうちょっとで金メダルのところで落ちてしまった。けれど自分も選手と同じ気持ちになったみたいに緊張しながら見ていました。今年は自分もなにかに挑戦してみたくくなりました。

【陸上競技】

・自分は走り幅跳びを見ました。全員8メートルくらい跳んでいてとてもすごかったです。部活でも走り幅跳びをやっているの、とても参考になりました。

【バドミントン】

・私はバドミントンを習っていて、ワタガシペアという選手が引退してしまうけど「いいペアでここまでこれで嬉しく思います」と言っているのを聞いて、こういう選手になりたいと思いました。

【競泳】

・白血病を克服した池江選手が一位になれなくとも最後まで頑張っていて泳ぎきっていた姿が印象に残りました。団地で協力して最後まで戦っている姿もすごかったです。

【フェンシング】

・フェンシング男子個人エペでの戦いが迫力があり、感動しました。集中を切らさず最後まで相手の隙を見定め、金メダルを勝ち取っていてすごいなと思いました。

【サッカー】

・サッカー男子では惜しくも強敵スペインに負けてしまいましたが、強敵スペインに負けるもんかという思いが伝わってきて感動しました。女子のサッカーでは延長戦になってみんな疲れているなかで頑張っているのをみて感動しました

【飛び込み】

・日本の玉井選手の飛び込みをたまたま見ていたが、とてもフォームが美しく、心地よい演技だった。

【7人制ラグビー】

・7人制ラグビーは、男子は負けてしまったけど、いい試合をしていたので心に残った。

【レスリング】

・藤波選手がかっこよく可愛かったこと。家族で観戦しました。

【自転車（トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX フリースタイル）】

・BMXを見て迫力と恐怖に驚きました。自転車でデコボコした道を走れるのももちろんすごいし、さらにそれで一回転をしたり、ハンドルを何回転もしたりと、正直意味がわからなくてすごく面白かったです。

【馬術】

・馬術は、実力以外にも馬の状態や会場の土の状態など運の要素も強く、特に馬の状態は、外見だけでなく馬の感情も重要で、言葉の通じないため一番難しくいちばん重要なものです。それらの障害を乗り越えて92年ぶりのメダル。馬が好きなのでとても感動しました。

【ゴルフ】

・松山英樹が世界の人々と熱戦を繰り広げていた。また、銅メダルを取ったときの笑顔とやりきったかんがすごかった。一流の人は違うなと感じた。

【テニス】

・ダニエル太郎選手がシードのキャスパー・ルード選手にすごくせてギリギリのところまで負けてしまった。ダニエル選手のプレーがすごく良くて自分もそのプレーを参考にして戦術が一個できた。

【ビーチバレーボール】

・朝礼で校長先生も言っていたとおり、音楽を流して選手を笑顔にした人はすごいと思った。

【近代五種】

・日本人初となるメダルをとるのを見ていたのですが、とても種目の一つ一つがかっこよかったので、とても印象に残っています。

■10月19日（土） 体験学習の日■

本校では、キャリア教育の一環として体験的な学習の充実を図り、10月19日（土）を「体験学習の日」として学年ごとのプランで体験学習を実施します。

【1年生】

1年生は夏休みの宿題に「職業調べ」を行いました。さらに、今後の将来の夢や進路を考えるきっかけづくりとして、立川市にある東京ビューティー&ブライダル専門学校との協力をいただき、「お仕事体験」を実施します。この体験では、保育や医療、調理、IT、スポーツや介護、美容、ブライダルなどの多様なコースから4つの仕事を選び、体験します。この体験学習を通して、働くことの意義や大切さについて考え、将来の進路を考える上で役に立てられたらと思います。また、体験を通して、コミュニケーション能力を高め、社会人としての言葉遣いや振る舞いを学ぶことで、来年度の「職場体験」へとつなげていきたいと考えております。

【2年生】

2年生の体験学習は、地域合同総合防災訓練です。小平市防災危機管理課、陸上自衛隊小平学校、小平消防署、消防団第2分団、避難所開設準備委員会、緊急初動要員の各機関のご協力のもと、生徒が防災行動力を身に付け、防災意識を高めることを目的として実施します。具体的には、①震災のDVDの視聴と災害派遣隊員の体験談等を交えた防災講和、②体育館が避難所になったと想定した避難所設営体験、③傷病者の応急手当と担架等による運搬法の学習、④仮設トイレの組み立てと利用法の学習、⑤心肺蘇生・AEDの操作法の学習、⑥消火器による初期消火と煙ハウス体験、⑦保護者に炊き出しをしていただき非常食（アルファ米）の試食、と多くの体験を通じた本格的な訓練です。災害を自分事として捉え、防災について心構えを新たにしたいと思っております。

【3年生】

3年生はソニー生命のライフプランナーをお招きし、ライフプランニングの授業を受けます。ライフプランニングとは「人生とお金」について考える授業です。過去の授業では、公立と私立の授業料の差、持ち家と賃貸どちらを選ぶか、結婚するとしたら何歳で、子どもの教育費はどのくらいかかるのか、そんな中で、家庭の経済状況はどうか、銀行にお金を預けていても金利が低い現状などをふまえてお金の使い方や管理をどのようにするか、自分が病気になって働けなくなったらどうするかなどを考えました。今年度は事前課題を実施しているので、それをもとにしたお話を聞き、ワークショップで学習します。進路を考える上で、お金のことを考えることは非常に大切です。きっと将来設計に役立つ授業となることでしょう。

■合同あいさつウィーク 大成功！■

今年度、小平市生徒会サミットで、四中校区（四中・四小・十小・十五小）の生徒会・小学校児童会で企画した、合同あいさつウィークを9月24日（火）～27日（金）の4日間行いました。最終日の四中正門前は雨天延期となり別日となりましたが、他3日間は天気の良い中、四中生有志が8時に各小学校へ集合し、小学生と一緒に実施できました。

各小学校も多くの子供が正門前に並び、笑顔いっぱい、元気なあいさつが飛び交いました。出迎えてくれた各小学校の校長先生や先生方からは「おっしくなったねー」など久しぶりの再会で喜ぶ声や、知っている小学生とたわむれる四中生の姿があり、ほのぼのとした光景でした。また、正門前を通過する地域の方や高校生も、元気な声に挨拶を返してくれるなど、たくさんの交流がありました。

今回の合同あいさつウィーク、お互いにあいさつを交わすことで自然に目が合い笑顔がこぼれる姿に、あいさつの良さを改めて感じました。また小学生や中学生、地域の方と広くあいさつを交わすことで今後更に地域とのつながりが深まることを期待します。



■生徒の活躍■

陸上競技部 小平市代表として選出された第76回東京都中学校支部対抗陸上競技大会への出場者

【男子】 1年 100m 加藤大翔 1年 1500m 澤木基宏 2年 1500m 浅川 仁
1・2年走幅跳 安西柊弥 共通 400m 小熊健祐 共通リレー 米山倭世・小熊 健祐
【女子】 2年 100m・共通リレー 藤井日菜乃 1・2年走幅跳・共通リレー 福田芽生
共通 1500m 武富莉子

バドミントン 小平市バドミントン市民大会（中学生以下）

男子優勝 1年 中村知優 女子3位 1年 早川寧々